

日本データ通信協会は迷惑メール対策の DMARC の普及促進のため上記イベントにて講演を行った。

1. イベント概要：

日時：2017年10月6日（金）～7日（土）

会場：新潟県南魚沼郡湯沢町 湯沢町公民館 および 湯沢東映ホテル

主催者：NPO 新潟情報セキュリティ協会(ANISec)

情報セキュリティ ワークショップ in 越後湯沢

実行委員会 委員長 石井威望(東京大学名誉教授)

参加者：情報セキュリティに関心の高い関連業界、研究者、学生、行政の方々

2. 講演内容：

「電子メールシステムのセキュリティ対策—なりすまはこうやって防ぐ—」

2017年7月に送信ドメイン認証技術 DMARC の利用に関する法的整理がなされ今後普及が進むことにより、「なりすましメール対策」としての効果が期待されている DMARC と関連する技術（ARC、BIMI）を含めた技術内容、法的整理の具体的な論点、導入に際しての留意点などを紹介した。

3. 講師：北崎恵凡

ソフトバンク株式会社

インターネット協会) 迷惑メール対策委員会副委員長

迷惑メール対策推進協議会技術ワーキンググループメンバー

4. 参加者数：

299名+オフサイト会場にて40名（講演を遠隔の別会場から同時聴講）

合計339名

北崎恵凡氏 講演「電子メールシステムのセキュリティ対策—なりすまはこうやって防ぐ—」	
	<p>スポンサーセッションの最後には、一般財団法人日本データ通信協会 迷惑メール対策推進協議会 技術WGの北崎恵凡様から、Tweetや動画も併用しながらの講演がありました。日本での最新動向を含む紹介です。</p> <p>「今日は“DMARC”を覚えて帰ろう！」</p> <p>まず、迷惑メールの概況、フィッシングメール/なりすましメールの事例と傾向について、さまざまなデータと最新事例をデモも交えながら生々しく紹介し、DMARCの利用方法を説明していただきました。（講演資料では、DMARC、および関連技術であるARCの機能についても解説されています）</p> <p>そのうえで、事例紹介として海外の各業界におけるDMARC導入状況を例示し、日本企業の対応が急がれる事の示唆がありました。また、国内で当初の利用状況から改善されて来ている事例や、DMARCをうまく活用して”なりすまし”にうまく対応した事例も示されました。</p> <p>今後の活用・普及の重要性を印象付ける内容でした。</p>

